

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2291400022		
法人名	(有)在宅支援センターふれあい		
事業所名	グループホームふれあい裾野	ユニット名	1階
所在地	静岡県裾野市石脇495-2		
自己評価作成日	平成23年9月30日	評価結果市町村受理日	平成23年12月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2291400022&SCD=320&PCD=22
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション有限会社 福祉第三者評価・調査事業部		
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4-1		
訪問調査日	平成23年10月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

排尿、排便は自分の力でトイレにてしてもらい、濡れたパットをいつまでも当てているという不快感をなくしてもらおうと取り組んでいる。実際に今までは時間でトイレ誘導、パット交換のみしていた方を午前1回、午後1回便座に座っていただくことにより、少しずつ「座ればおしっこがでる、便がでる」という感覚が戻ってきた方もおられ、又、職員もその方がトイレにてズボンをおろすことも嫌がらず、その上座っておしっこもしてくれた。感激です！という報告もありました。今後もパット、おむつにさせない！という強い気持ちで取り組んでいきたいと思っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

黄瀬川に隣接する閑静な環境に立地する。開設して2年10ヶ月を経過する裾野市で2番目のホームである。開設時に職員全員で検討して定めた運営理念を毎朝三唱し、その実践に取り組んでいる。利用者・家族・地域・行政・医療機関との連携が確立されており、「安心して支援を任せられるホーム」の印象である。その背景は、職員同士の連携・職員の管理者への信頼・管理者の法人への信頼があり、そのことが利用者・家族への信頼感に繋がっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	オープニングスタッフ全員で意見を出し合っ て決めた運営理念を、毎朝申し送り時三唱 し、仕事に取り組むようにしている。	2年10ヶ月前のオープン時に、みんなで定め た運営理念「優しいぬくもり 本当の家であ るように…」に、今でも強い愛着を覚えてお り、毎朝の申し送り時に三唱してホームの運 営に活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられ よう、事業所自体が地域の一員として日常的に交 流している	毎月ある地域の常会に参加して区の住民と して行事にも参加できるようにしている。散 歩に出る際には近隣の方とも挨拶をかわ し、野菜やお花などもいただいている。	運営規程・契約書・重要事項説明書のすべ てに「…地域住民との交流の下に…」が謳 われており、盆踊りや神社の夏祭り・運動会・ 常会等にも参加し、日常的に地域との交流 が図られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の 人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて 活かしている	地域のお祭りや運動会に参加し、一緒に盆 踊りをしたり、お話をすることにより、認知症 の方の理解を深めてもらえるようにしてい る。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評 価への取り組み状況等について報告や話し合い を行い、そこでの意見をサービス向上に活かして いる	2ヵ月に1回開催している。スタッフからホー ムにおけるケアの取り組みや、入居者様の 日頃の様子などをお伝えし、ご家族や、近 隣の方々から頂いた意見をホームの運営に 活かす様努めている。	2ヶ月に1回着実に開催され、開催方法も工 夫されて、1回平均20名以上の参加があ る。利用者・家族の参加が多いのが特徴で、 近隣の住民や行政が確実に参加している。 貴重な意見が出され、ホームの運営に活か されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所 の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝 えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加していただき、ホーム のケアの取り組みや、様子をみていただき、 率直な感想を聞くなどし、連携を図ってい る。	日常的な報告・連絡・相談のみならず、運営 推進会議にも参加し、適切な連携や協力関 係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における 禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解して おり、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケア に取り組んでいる	身体的拘束等の入居者の行動の制限はおこ なっていないが、建物の入り口は安全の ため、施錠し、ブザー等により、出入りしてい る。	マニュアルを定め、禁止の対象となる具体的 な行為を正しく理解し、実践している。特に 「ちょっと待って」を禁句に取り組んでいる。安 全上の観点から、玄関は施錠されている。	安全上の判断は大変難しいが、できる 範囲で、少しでも施錠なしで過ごせ るような工夫を今後検討されたい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法につい て学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での 虐待が見過ごされることがないように注意を払 い、防止に努めている	暴力的な行為をしないことはもとより、職員 の不注意な言動が入居者の気持ちを傷つ け、虐待となってしまうことを日頃から認識 し、入居者の人権を尊重することを一番にケ アに努めている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は制度について研修等で学ぶ機会はあるが、現在は対象となる方がいないので、それらを活用していない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項等の説明をし、納得していただき、入居後も不安や疑問がある時は、充分説明し、その解消に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議において、入居者、ご家族、地域の民生委員、市役所担当職員、現場スタッフの参加にて、意見交換をしている。	運営推進会議では、利用者・家族の参加が非常に多く、参加時は全員一言ずつ意見表明をしている。近隣役員や民生委員・市職員からも適切な意見が出され、議事録にも記録されていた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各フロアでのミーティング、月に1度の全体ミーティングにおいて、意見交換をしている。	上記で現場スタッフも参加して意見を述べている。ホーム内ではフロアミーティングや全体会議で意見を反映し、法人としても施設管理者会議・フロアリーダーミーティング等で職員の意見を聞き、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	正社員は年に2回、社員は年に1回自己評価を提出し、それに基づき面接をおこない、意見交換をし、やりがいのある、働きやすい環境がつくれるよう配慮されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修、社外研修にも参加できるように、勤務を考慮している。資格取得の状況を把握し、情報の提供もしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は月1回の地域調整会議に出席し、市内の施設関係者とも研修会を通して交流し、事例検討会や相互の活動などの情報を得ている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の生活歴を把握し、アセスメントをスタッフで共有している。ご本人の変化を観察し、寄り添い、傾聴を大事にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族からもご本人の今までの様子を傾聴し、要望をアセスメントしている。ホームに預けていることで遠慮しない関係作りをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時の的確な状況判断と、優先順位の把握をしながら、ご家族とも相談しながら福祉道具などの導入をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その方のできること、できないことの把握をし、その方に合った役割を見つけ、無理のないよう職員と一緒にこなすようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族も一緒に参加できる行事を催したり、誕生会にはご家族も参加していただき、一緒にお祝いしている。ご家族はいつでも面会でき、職員とご家族もよく話をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人にとって大事な物は入居の際に持ち込んでもらい、それにまつわる思い出を大切にしている。学生時代の友人や、グランドゴルフ仲間などの面会も時々あり、思い出話等を大切にしている。	大切にしてきた人など、昔のサッカーやグランドゴルフ仲間の来訪支援がある。懐かしい昔の自宅近くでの買い物や使い慣れた品々の居室への持ち込み等、馴染みの関係を保つ支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係の把握をし、職員が中に入り、皆で支えあっていける関係作りをしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	医療行為が必要となり転所された方や、ご家族の意向で退所された方が次の施設へ入所するときには、ホームでの情報を提供している。その後もいつでも相談に応じる体制をとっている。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の思いや意向を聞き、センター方式を利用してカンファレンスで検討している。困難な場合には、あらゆる情報を収集して、より良い状況になるよう検討している。	入居時の家族や利用者からのヒアリングをもとに、センター方式を活用・工夫した「思考展開シート」等で利用者の状況を掴み日々の関わりから一人ひとりの思いや意向を掴む取り組みが行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所に至るまでのアセスメントを共有し、生活歴などもいつでも個人カルテで確認できるようにしている。家族や関係者からの情報に基づき、検討、対応している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々様子観察に努め、体調変化や心理的ストレスなども気づくようにし、職員間で共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	他業種(嘱託医、看護師、歯科医師、歯科衛生士)やご家族からの要望や意見を取り入れながら、計画作成している。	入居時のアセスメントを下に、医療関係者や家族・職員の意見等を取り入れた介護計画が作成・実践されている。毎月のカンファレンスでの定期的なモニタリングが行われ介護計画に反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録は個人記録、ワーカー日誌に記入し、1日2回の申し送り、仕事に入る前には記録を確認することにより、情報共有を徹底している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	嘱託医以外の病院受診など、ご家族が都合で行けない時は、職員が同行している。買い物や外出など、できる限り対応している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市の文化祭の見学やお祭りの参加、スーパーの買い物、外食、近隣の介護施設の行事に招かれ参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族の希望のかかりつけ医には定期的に受診していただき、嘱託医とも連携が取れる体制になっている。	特定の疾患を持つ利用者は、従来のかかりつけ医を継続し、ホームの嘱託医とも連携を図りながら、24時間の適切な医療が受けられるよう支援している	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者一人ひとりの健康状態を把握し、看護師が訪問したときはそれを的確に伝え、適切な看護が受けられるようにしている。緊急の場合にはすぐに来てもらえる体制になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院機関への情報提供をおこなっている。早期治療して、早期退院できるよう、ソーシャルワーカーと連携をとっている。ホームで退院後も対応できるかどうか、面会時にアセスメントしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	口から食事が取れなくなったので、医師を含めご家族と管理者、ケアワーカーと話し合いをおこなった。事業所で出来る限りのことはしたが、ご家族にも納得していただき、次の施設を決め転所とした。	法人全体で終末期対応に取り組んでおり、入居時にホームで出来ることの説明や看取り同意書の確認等を行い、医療機関との連携体制も整えられ、職員全員で取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時には、すぐに医師に連絡が出来る体制になっている。緊急搬送する場合にも、管理者とリーダーに連絡し、すぐ駆けつけることができる体制になっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立会いの下、避難訓練、通報訓練、消火器の使い方の訓練をしている。スタッフ、入居者も訓練に参加し、災害時についてのアドバイスをいただいている。	年2回、近隣の消防署の協力を得て避難・消火訓練等が実施された。地域との協力関係も整えられ、非常災害時の備蓄も整備されている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各居室と、トイレには内側から鍵がかけられるようになっており、ご家族の面会時や、一人になりたいときには、入居者が鍵をかけ外側から声をかけると開けてくれる。スタッフが入る時にも必ず、ご本人に了解をとってから入っている。	利用者一人ひとりの尊厳やプライバシーを尊重し、居室内部での施錠や、日々の関わりでの声掛けや対応にも職員間で注意しあっている。利用者個々の情報等も事務所内に的確に保管されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の思いや希望や自己決定を尊重している。言いやすい雰囲気作り、どちらが良いかを選択できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	外に行きたい場合には、散歩や買い物に行き、ゆっくりしたい場合には居室で休んだりしながら、一人ひとりのペースに合わせて対応している。天気や季節にも充分配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2カ月に1度の訪問美容院にてカット。ご本人の想いを尊重して季節にあった洋服と一緒に選んできていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	何が食べたいか選択できる様に聞き、一緒に準備や調理をしている。季節に合わせた食事を提供し、食事もしみの一つになっている。	利用者の希望を聞きながら食材の買い物、準備や調理・片付け等を利用者と一緒に行っている。職員と一緒に食事を楽しみ利用者同士の会話も弾んでいる光景が見られた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	脱水になりやすい方には水分量チェック、飲み込みにくい方には、ゼリーで提供。栄養状態を把握するために、食事量チェック、献立表を確認しながら一日の栄養バランスを見ている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行っている。週に一回は、口腔ケア、口腔体操を受けている。随時歯科医師の往診。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表で排泄パターンを把握し、その方にあったパターンでトイレへの声かけ、その方に合った排泄ケアの配慮、自尊心を傷つけない排泄ケアを心がける。	排泄自立支援を目指し「おむつ外し学会」の目標を活用し、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレでの排泄やおむつの使用に頼らないケアに取り組んでおり、実績に結び付けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個人の排便の量や形態を確認し、水分強化したり、運動強化したりしながら、服薬も調整している。下剤の種類と効能をスタッフ全員が理解できるようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個人の希望にあわせていつでも入浴できるようにしている。また、重度化しても職員二人で対応し、安全に入浴できるように支援している。	週2回の入浴を基本に、利用者の希望に合わせた支援を行っている。季節湯の活用や、入浴拒否利用者には散歩や外出誘導をしながら入浴支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	季節に合わせて、室内温度の調整をしている。今までの生活習慣を尊重し、個人に合わせたベッドや寝具で睡眠をとっていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は個人の服薬を把握し、服薬が変更した場合には、よく観察し副作用が強い場合には、医師に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人に合わせて、掃除や料理、片付けなど役割を持っている。行事に向けての準備や、毎月のカレンダーなどを作成し、達成感を持ってもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の散歩、買い物、外食の機会を多く設けご家族の参加も促し、一緒に出かけたりしている。	毎月の行事活動を下に、家族の参加を促し、花見やお祭り・花火・盆踊り・敬老会・誕生日外食等の外出機会の他、日常の散歩や買い物、ホーム周辺での外気浴等の支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人でお金を所持している方はいない。必要に応じてご家族に連絡し、購入していたり、立て替え金にてこちらで購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望により家族や知人に電話をかける支援をしている、また手紙や贈り物が届いた際には、返信、返礼の支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者と一緒に毎朝掃除をおこなっている。清潔感を保ち、不快匂いがないように空気の入れ替えをおこなっている。季節に応じた掲示物の作成をし、時季のお花も飾っている。	ホーム周辺や施設内共有空間は、利用者と一緒に掃除を行い、明るく清潔に保たれている。居間や廊下には、行事の写真や季節の飾り、利用者の絵画などが飾られ、ゆったりと落ち着いた環境が整えられている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースにソファを配置している。気の合った同士で話をしたり歌を唄ったりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具、仏壇の持ち込み、家族の写真や飾り、動線を配慮した家具の配置をおこない、安全で居心地よく過ごせるよう工夫している。	居室内には、利用者の使い慣れた家具や家族の写真、好みの品々等が配置され、一人ひとりの個性に合わせた落ち着いた居室作りが成されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全居室入り口に名前を掲示、廊下や階段には手すりがあり、自由に行き来できるようになっている。屋内では、自分の足で歩行を促し見守り支援をしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2291400022		
法人名	(有)在宅支援センターふれあい		
事業所名	グループホームふれあい裾野	ユニット名	2階
所在地	静岡県裾野市石脇495-2		
自己評価作成日	平成23年9月25日	評価結果市町村受理日	平成23年12月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2291400022&SCD=320&PCD=22
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション有限会社 福祉第三者評価・調査事業部		
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4-1		
訪問調査日	平成23年10月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎日面会に来られる方、週1回来られる方等、ご家族との絆の強い入居者が多く、ケアに対する感想や、要望等も率直に話していただいている。それに対し職員も一緒に考え、取り入れられることは改善し、現状に満足することなく、より良いケアに努めている。行事のときは、趣味の手品を披露してくれたり、自分の家族だけでなく、他入居者のお世話をさせていただいたり、家族同士の交流もあり、アットホームな空間となっています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価表に記入されています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	出勤時フロアに入る時は必ず運営理念を思い出し、又朝の申し送り時には三唱している。	※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価表に記入されています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	回覧板等で地域の行事を把握し、参加している。又近所の方から声をかけていただき、駐車場の確保、席の確保もしていただき、助かっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の夏祭りに参加し、一緒に盆踊りをおどったり、お話をすることで認知症の方の理解をお願いしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	開所から2カ月に1回、定期的におこなっている。ご家族からの意見や地域の民生委員、区長にも参加していただき、意見交換し、より良い施設運営に繋がるようにしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所担当の方にも運営推進会議に参加してもらい、ホーム内の様子や入居者の様子を見ていただき、率直な感想など発表してもらっている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体的拘束等の入居者の行動を制限する行為はおこなっていないが、建物の玄関は安全のため施錠している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	暴力的な行為だけでなく、職員の不注意な言動も入居者の心を傷つけ、虐待になってしまうことがあるということを認識させ、入居者の人権を尊重するケアに努めるようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等で制度について学んでいるが、現在は対象になる方がいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、重要事項等の説明を行い、納得していただいている。入居後も不安や疑問がある時は充分説明し、納得していただけるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議において、入居者、ご家族、地域の民生委員、市役所担当職員、現場スタッフの参加で意見交換をしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は各フロアミーティング、毎月の全体ミーティングで職員と意見交換をし、提案を聞く機会を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	正社員は年に2回、社員は年に1回自己評価を提出し、その結果を面接にてフィードバックしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修、社外研修にも参加できるよう勤務を配慮している。資格取得の状況の把握と、情報の提供もしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は地域の調整会議に出席し、研修を通して、他施設職員との交流を持ち、相互の活動などの情報交換をしている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居する前のアセスメント情報をスタッフで共有している。入居してからはご本人の様子をしっかり観察し、コミュニケーションを多くとり信頼関係を築き、安心していただく。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族からの情報も共有しながら、ご家族の不安も傾聴している。ご家族との関係も途切れないよう支援している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族の意向も聞きながら、優先順位の把握をし、福祉用具なども導入している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その方のできること、出来ないことの把握をし、無理強いせず、その時の体調や気分を見ながら、家事や掃除などの役割を持っていただき、職員はさりげなく支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事の時はご家族も一緒に参加され、職員と一緒に動いてくれ、自分の肉親だけではなく、他の方々のお世話もしていただき、ご家族同士の交流もできている。職員も家族の絆を尊重している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今までの交友関係や、親族関係が途切れないよう、気軽に立ち寄れる雰囲気作りをしている。又なじみの物や家具、写真なども飾っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お天気の良い日は両フロア合同で外でお茶を飲んだり、体操したり、レクを楽しんでいる。一人で孤立しないよう、職員が中に入り、関わっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	医療行為が必要となり転所された方や、ご家族の意向で退所された方が、次の施設に入所されるときはホームでの情報を提供している。その後もいつでも相談に応じる体制をとっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の思いや意向を聞き、カンファレンスではセンター方式を使用し、あらゆる方面から検討、その方の意向の把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族に、入所時にセンター方式、私の基本シートを記入していただき、生活歴の把握をおこない、皆で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々様子観察に努め、気づきを大切に、身体的変化、精神的変化の把握に努め、職員間で共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の意向はもちろんのこと、医師、看護師、歯科医師、歯科衛生士、家族の意見も取り入れながら、計画作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録は個人記録と、ワーカー日誌に記入し、1日2回の申し送りをしている。スタッフは記録を確認し情報共有、業務開始するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その方の思いに添った個別ケアをおこない、買い物や散歩など日々の日課の中で柔軟に対応している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市の文化祭の見学や近隣の神社のお祭りに参加、スーパーや外食、本屋に行ったり、近隣の介護施設の行事に参加など地域資源の情報を収集し、活用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週に1回の嘱託医往診。又入居前よりのかかりつけ医の受診が希望であれば、受診していただき、嘱託医とも連携をとっている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	個々の入居者の健康状態の把握をし、看護師が訪問した時にそのことを伝え、適切な看護が受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院機関への情報提供をしている。又ソーシャルワーカーとも連携をとり、退院後はホームでの生活が可能か等の情報交換をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期にホームで出来ることを説明するとともに、入居者やご家族の考え方を聞き、希望に添えるよう協力医療機関と連携して支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時には、すぐに医師に連絡ができる体制になっている。救急搬送する場合も管理者、リーダーに連絡し、すぐに駆けつける体制になっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立会いで、通報訓練、消火訓練、避難訓練をおこなっている。職員、入居者ともに訓練に参加している。今後も定期的の実施していく予定である。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各居室、トイレには内側から鍵がかけられるようになっている。職員が居室に入る時は必ず、ご本人に了解を得て入室している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の思いや希望を日頃から職員に言えるよう、信頼関係を築き、言いやすい雰囲気作りをしている。又こちらからの押し付けではなく自己決定できるような声かけを工夫する。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	年齢や体力、季節やお天気も考慮し、一人ひとりのペースに応じた過し方ができるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者が愛着のある服をご家族にもってきていただき、季節にあった洋服と一緒に選び、着てもらっている。2カ月に1度の訪問美容院での散髪、カット。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	何が食べたいかを聞き、味付け、色合い、季節を感じることでできる食材を選び、おしゃべりしながら、楽しく準備している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	脱水にならないよう、水分量チェック、血圧の高い方には、塩分を控えた薄味にしたりして栄養バランスも配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアをおこなっている。自分でできる方は仕上げを手伝っている。必要に応じて歯科医師の往診、週に1回歯科衛生士による口腔ケア、口腔体操、その方に合った口腔ケアの方法を実施している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表で排泄パターンを把握し、その方に合った時間での声かけ、誘導をおこなっている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個人の排便の量や形態の確認、水分強化や運動、ヨーグルトや牛乳、バナナ等で排便を促しているが、下剤の服用もある。下剤の種類と効能を職員全員が理解できるようになった。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者の希望にあわせて、いつでも入浴できるようにしている。寝たきりの方も2人対応にて安全に気持ちよく入浴できるよう支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室内の温度調整、清潔なりネンの提供を心がけている。季節に応じ寝具も衣替えするよう家族にお願いしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	社内研修の薬学講座に参加し、薬の効能、副作用についても学んでいる。職員は入居者の服薬内容を把握し、薬の変更があった場合にはよく観察し、変化があった場合はドクターにすぐ報告するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方にあったできること、楽しいことを探し、無理強いせず、職員も一緒になってやっていくようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の散歩や買い物、季節に合わせた外出(花見、夏祭り、盆踊り、花火、地域の運動会等)もおこなっている。ご家族も一緒に敬老会外食、誕生会外食等の支援。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の了解の上で、少額のお金を持っている。外出した際に、自分で好きな物(たい焼き、アイス等)を購入できるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要に応じて電話がかけられるようにしている。大事な人に年賀状を書いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎朝、入居者と一緒に掃除をしている。清潔感を保ち、不快な臭いがないよう、空気の入れ替えをしている。外出したときの写真や、入居者のお一人が描いた油絵などを飾り、なじみの空間をつくっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースにはソファがあり、気の合った同士がお話したり、テレビを観たり、歌謡曲のDVDを観て唄ったりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、自宅から自分が使っていた家具を持ち込み、写真を飾ったり、テレビを置いたりして、居心地よく過ごせる工夫をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全居室前には名前を掲示し、目印もつけ工夫している。一階に降りる際には階段が危険なので、転倒しないよう柵をしてるが、自由に行き来ができています。		